

東大和市子ども・子育て支援会議 第4回議事録

会 議 名	平成28年度 第4回 東大和市子ども・子育て支援会議
開 催 日 時	平成29年2月2日(木) 14:00～
開 催 場 所	東大和市立中央公民館 301学習室
委 員	(出席者)佐々木委員、水上委員、上田委員、仲里委員、黒岩委員、黒田委員、神原委員、 小林委員、網干委員 (欠席者)三坂委員、續谷委員
事 務 局	新海(子ども生活部副参事)、志村(健康課長)、渡邊(保育・幼稚園係長)、内藤(青少年育成係長)、 小川(子ども・子育て支援施策推進担当主査)
傍 聴 者	0名
会 議 次 第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 会長挨拶 3. 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1)平成29年度の保育園の定員状況について (2)子ども・子育て支援事業計画の見直しについて (3)報告事項 <ul style="list-style-type: none"> ・年末保育・休日保育について ・保育施設及び学童保育所の申し込み状況について (4)その他 4. 閉会
配 付 資 料	<p>[事前配付]</p> <p>会議次第</p> <p>「区市町村 子ども・子育て支援事業計画 改訂状況(予定)等調査表」の作成について(依頼)</p> <p>平成29年度学童保育所入所申請状況</p> <p>子ども・子育て支援事業計画</p> <p>区市町村 子ども・子育て支援事業計画 改訂状況(予定)等 調査表[集計結果]</p> <p>平成29年4月からの特定地域型保育事業所の利用定員について</p>
会議の結果及び主要な発言	
事務局	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 会長挨拶 3. 平成29年度の保育園の定員状況について <p>只今より平成28年度第4回東大和市子ども・子育て支援会議を開会させていただきます。なお、本日、三坂委員は諸事情のため、欠席の連絡をいただいています。續谷委員も欠席です。本来であれば、ここで事務局の榎本部長から一言挨拶をさせていただくところですが、今日は緊急対応が入っていて、子ども生活部長、保育課長、子育て支援課長、青少年課長が欠席になっています。</p> <p>では、会長よろしく願います。</p>
会長	<p>では、2名の委員の方が欠席ということですが、開始したいと思います。</p> <p>まず初めに、本日は傍聴希望の方は。</p>

<p>事務局 会長</p> <p>事務局</p>	<p>今日はおりません。</p> <p><会長から挨拶></p> <p>それでは議事の1番目、29年度の保育園の定員状況について、説明をお願いします。</p> <p>平成29年度から上北台駅前小規模保育事業(A型)ふたば保育園の開園を予定しています。小規模保育事業は、子ども・子育て支援法第43条第3項に基づき、利用定員を皆様に報告した上で、意見をいただく必要があります。利用定員が1歳児9名、2歳児10名、合わせて19名で開設する予定になっています。3歳児以降は同じ法人が運営する立野みどり保育園を連携施設として、優先的に入所できるようになっています。</p> <p>続きまして、「れんげ第二桜が丘保育園」は、社会福祉法人蓮花苑の保育施設になります。昨年の10月から定員8名で保育運営をしていますが、今年の4月から2名増加の定員10名、内訳で1歳児5名、2歳児5名で、定員を拡大する報告をさせていただきます。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>以上の報告に基づき、何か質問や意見はありますか。</p> <p>尾崎市長が今ある認可保育所は改築等で定員を増やすことはあっても、認可保育所の数を増やすことはしない方針を就任当時から立てていました。ただ、そうは言いつても市内の保育需要は引き続き高いので、その解決策の1つとして、この小規模保育事業があります。昨年の10月からうちも実施させていただき、もう一つの早樹保育園でも4月から始めていました。今度新規に、「ふたば保育園」が上北台駅の近くにできます。小規模保育は借用した建物を使っても構いません。認可保育所に比べると大分条件が緩いので設置も手軽にでき、需要がなくなったときにその閉園も比較的容易くできるので、東大和の実情にはかなり適しています。うちの法人では内装、改築にかなりお金がかかりましたが、これは国からきちんと補助してもらいます。</p> <p>もう一つの利点は、市の負担率が低い点があります。市民の需要に応えつつ、市の財政にもそれほど負担がかからないメリットもあるので、我々は市にできる限り協力していきたいというところがあります。ふたばさんが新たに建てられますが、定員19名までが上限なのでぎりぎりまで、れんげ第二桜が丘は、1歳が5名、2歳が3名でしたが、4月には1歳、2歳とも5名ずつの10名になりますので、少しでも待機児童の解消に役に立てればという状況です。今後も市内で頑張る法人が出てくれば、需要に応じて増加するので、そのときに報告できると思います。質問を聞いておいて私が自分で答えて申しわけありませんが、委員の皆様全員が同じ理解、認識を持っていただければと思います。</p> <p>ほかにはよろしいか。</p>
<p>会長</p> <p>事務局</p>	<p>4. 子ども・子育て支援事業計画の見直しについて</p> <p>では、子ども・子育て支援事業計画の見直しについて、説明をお願いします。</p> <p>東大和市子ども・子育て支援事業計画は、計画期間が5カ年になっており、その進捗状況について、毎年度、確認・評価をいただき、必要に応じて見直しを行うとされています。次年度の平成29年度は計画の中間年度に当たるので、そこで見直しをするかどうかの判断が必要になります。昨年10月に東京都が区市町村に計画の改定状況について調査を行い、その結果を集計した資料がありましたので事前に送付させていただきました。その結果を見ますと、実施する予定が23、検討中が8、未定が5、見直ししないが26と、おおむね半々の状況です。さらに26市だけで見ますと実施予定が9、検討中が3、未定が3、見直ししないが11</p>

になっています。この調査結果は10月に都で開催された「子ども・子育て支援新制度 区市町村連絡協議会」で報告されたものです。その会議では八王子市が平成28年度に実際に見直しをした計画も配付されました。見直しする場合の見本になると思います、参考資料としてこちらも事前に配付させていただきました。

当初の計画を策定するときの各事業の利用見込みはニーズ調査を行い、その結果から推計し予定数を出しています。昨年10月に当会議で平成27年度実績を報告させていただきましたが、その中で放課後児童クラブや子育て短期支援事業など、見込みと実績で数字が大きく離れている事業もありました。また、計画策定時には実施予定がなかった利用者支援事業の母子保健型といった、現在実施している事業もありますので、その辺りを踏まえて委員の皆様に見直しをするか否かのご意見をいただきたいと思います。

会長

東大和市以外の他市、それから区部の状況等あわせて報告していただきましたがどうですか。何か質問や意見がありますか。

委員

ここで28年度実績がまとまってくると思いますので、その数字を見ながら見直しをかけた方がよいと私は思っています。状況がどのように変わってきているのかを市から報告いただき、何が足りないのか、どういうことが変化してきているのか、数字だけではなく、内容の報告もいただけたらと思います。

会長

ほかにいかがですか。

確かに最初立ち上げて計画を準備した当時から状況が変わっているという、その部分の把握は厳にしていっていただきたいし、それによっては当然のことながら見直しが必要になるかもしれません。事務局の報告にありましたように、あの時点ではなかった事業もありますので、その辺りも織り込んでいかなければいけません。

ほかにいかがですか。事務局側は我々にこのように検討してもらえるとありがたい、そういったところはありますか。

事務局

計画策定時にはなかったものということで、事務局から1点話をさせていただきます。

計画策定時はあまり世間に出ていませんでしたが、最近になり、子どもの貧困対策を国を挙げて取り組もうという方針があります。私も昨年3回ほど研修に行かせていただきましたが、全国各地で子どもの貧困対策をやっています。東大和の場合、まだ具体的な貧困対策をやっているわけではありませんが、子育て支援課でひとり親家庭に関する事業をやっています。ただ、こちらの事業は今回計画に載せた事業と違い、ニーズ調査の項目に挙げていませんでした。次回の計画を策定する時は、子どもの貧困対策もニーズ調査に入れる予定ですが、その前段として、とりあえず文言だけでも子どもの貧困対策について取り組んでいくといったような表現を加えさせていただけないかと考えています。

会長

事務局からの提案ですが、皆様いかがですか。

ニーズ調査は、この計画を立ち上げるときに一度実施しましたが、中間でのニーズ調査は考えていますか。5年経過した時点で再度ニーズ調査をするのか、あるいは最初ほど精密ではない、中間的なニーズ調査をするのかどうか、その辺りの考え方はどうですか。

事務局

5カ年計画で、29年が中間年度なので見直しする、しないの提案をさせていただいていますが、ニーズ調査についてはその次の5カ年計画に向けて取り組ませていただけたらと思っています。ですから中間のニーズ調査は念頭にはありません。

副会長

ニーズ調査をしなくても、私も西東京市の子育て会議で今、見直しがかかっていますが、出生率の変化、もしくは流入率の調査等で、子どもがどのぐらい増えているのかという数字を

<p>会長</p>	<p>打ち出したり、幼稚園の預かり保育の人数の変化を調査をしたり、保育園の預かっている状況といったものを数字で出すことによって、見直しをかけることもできます。</p> <p>ほかにいかがですか。</p> <p>中間の見直しを考えていく中で、事務局側からありましたように、立ち上げ時のような正式な調査は、現在の計画が終了し、次の5カ年計画のときに実施するとして、副会長が言うように、現に手に入るデータを上手に使いながら、事務局としてデータだけではなく、それぞれの事業者、あるいは市民から上がってくる声、保育課等様々な行政側の窓口や担当部署がありますので、きちんとした数字として把握していなくても、市民感情といった形である程度把握できている部分がありますので、それらを取り込んだ上で見直しをかけることはできるかと思えます。その方向で進む方が市民の実態に即した計画になるかと思えます。1回策定したから5年間これで行こうというよりも、その時の状況に応じてという方がよいと思えます。</p> <p>それからもう一つ、国や都の施策も大きく変わることもあります。国がこの年末に出した29年度予算を見ますと、保育に関しては待機児童対策がありますので、保育士に対する処遇の改善などもどんどんつき、国が次を考えて予算をつけ始めているのは、学童保育いわゆる放課後対策事業で、かなり力を入れています。それから子どもの貧困対策に関しては、都の少子社会対策部が統括してやっていく体制を目指しているので、今までのような縦割りではなく、ある程度横を横断する形でトータルで考えていく組織づくりも考えているようです。当然、国や都の政策が反映されてくれば、市もそれに対応して市民の実態と需要に応じて、その辺りを考えていく必要もあると思えますので、やはり5年間そのままより、ある種の改正や修正を加えていくことがよろしいのではないかと思います。</p> <p>皆様の意見も伺えればと思えます。</p>
<p>委員</p>	<p>保育園でも保護者から、卒園後に学童に入れない状況があると困っているお母さんの声が聞こえてきます。最初はニーズ調査で学童に入れる定員状況だったと思うのですが、地域によっては全く入れないという話がありましたので、学童の見直しもされているとは思いますが、ニーズ調査とは合っていない、理想とは少し反したところもあったと思えます。もう一度ニーズ調査も必要だと思いますし、緊急で入りたいお母さんもいると思えますので、どうにか入れるような形をとっていただきたい。平日は入れなくてもよいですが、夏休みといった長期休みの時だけでも入れるところがあったらよいというお母さんもいたので、そういうことも少し考えていければよいと思いました。</p>
<p>会長 委員</p>	<p>ほかにいかがですか。</p> <p>私を感じているのは、確かにハード面、待機児童対策はすごく充実してきていて、この前、埼玉からあえて東大和を選んで越してこられた方がいました。待機児童が入りやすいというのも結構有名らしく、東大和を選んできたということでありましたが、共働きは確かに住みやすいかと思えます。最近、出生率も上がってきていて、私の周りでも3人目を生む人が増えていきます。子育てはしやすいと私自身も感じています。幼稚園に入る前までの乳幼児の行く場所が少なく、例えば市内ですと誠愛保育園がありますが、保育士さんがずっといてくれます。そうすると、毎日子どもを連れて、何かちょっとした悩みを毎日相談できる場所なのですごくほっとします。そういう場所を市内のあちこちにつくっていただきたいと思っていたり、保育園をもう少し地域に開放していただきたいと思っています。</p> <p>学童の件も、共働きの家庭と専業主婦の家庭がありますが、共働きのお母さんが忙しいので、学童に入れないお子さんたちが専業主婦のお宅に集まってしまい、おやつをみんなで</p>

<p>会長</p>	<p>食べに来るようになってしまっています。それぞれの家庭のルールがあるとは思いますが、冷蔵庫をあけて勝手に食べてしまったり、いろいろな子がいますが、働いている人も、いない人もいろいろな家庭の方がもっと子育てしやすいまちになっていくとよいと感じています。</p> <p>誠愛保育園の子育て広場ですが、超ベテランの保育士、要するにおばあちゃんのような存在の方がこうなのよ、ああなのよとアドバイスしたりと、そういう安心感があります。機敏に動ける若い保育士さんもよいですが、経験豊富な方がちょっとしたことを悩んだり、心配することはない、どこのお子さんでもみんなそうなのよと言われるだけで、お母さんは安心できます。基本的には子育ての悩みを個人がひとりで孤立化して抱えないことです。聞いてくれるだけですとか、部分的にシェアしてくれるだけでも随分救われるますので、そういう意味ではよい案であると思います。</p>
<p>副会長</p>	<p>ほかに何かありませんか。</p> <p>今のにも関係してくると思いますが、数のことだけではなく、当初この計画が出たときに、質の見直しをしなければいけないところが全く抜けたままここまで来ています。特に待機児もそうですが、専業主婦や子育てに専念しているお母さん、パートなどで両立しようとしているお母さん、そういう人たちのこともそのままになっています。特に3歳から5歳の間、0、1、2もそうですが、補助金等について格差が非常にあります。認証と普通の保育園でもかなり違いますし、保育園と幼稚園の格差もありますし、預かり保育も幼稚園でやっています。新しい部屋を用意すると人数が増えてきて、また部屋が足りなくなってしまうという状況の中でやっているにもかかわらず、その辺りに補助金等の支援が来ません。</p> <p>未就園児のことも幼稚園でしっかりやっています。お母さんが来て、子どもと一緒にかわれるように後押しをしていることについてもかなり差があります。先生を集めることにしましても、保育園には先生たちへプラスの給与補助や家賃補助が出たりしますが、幼稚園にはそういう補助がありません。保育士、幼稚園教諭の質が上がるように、その確保に努められているのかも含めて、子育てをする人たちが平等に過ごせるようになっていくのか、平等に補助を受けているのかどうかという視点でも、もう一度見直しをかけていただけたらと思います。そういう補助金のことも含めての格差等の是正を考えていただきたい。</p>
<p>会長</p>	<p>ほかにいかがですか。</p> <p>では、今まで出た意見を大体まとめますと、基本的には中間年に当たりますのである程度の見直しの作業があります。それに対して最初に立ち上げたときのような大がかりなニーズ調査を行うわけではありませんが、現実に入ることになるさまざまなデータを上手に組み合わせたり、活用しながら、現場で接している保育士等が吸い上げたお母さん方の声や思い、行政側のそれぞれの担当窓口の意見、そういうところをうまく組み上げながら、材料にして見直しをしていく方向性でいかがですか。</p> <p>我々の委員会は、見直しの作業をぜひ行っていきたいという結論づけでよろしいですか。</p> <p>では、よろしく申し上げます。</p> <p>5. 年末保育・休日保育について</p>
<p>会長 事務局</p>	<p>では、3番目の報告事項について報告をお願いします。</p> <p>最初に、平成27年度から行っている年末保育です。通常の保育園は年末年始は開園していませんが、2年前から市内の玉川上水保育園で12月29日と30日の2日間行っています。今年で2年目になりますが、29日は21名、30日は8名の利用になっています。昨年度は29日が13名なので8名の増加、30日が6名なので2名の増加と利用は増えています。</p>

次に休日保育ですが、こちらは今年度の12月から先ほどと同じ玉川上水保育園で実施されるようになりました。直近の数字ですが、1月は5日間実施し23名、1回当たり4.6名の利用がありました。

続きまして29年度4月の一次申請の結果を報告します。申し込みは昨年11月28日から12月9日の間で行い、申込者数は498名で昨年と比べて35名の減。そのうち承諾で入所できた方は420名になります。昨年と比べて26名の増になっています。内訳ですがゼロ歳児が163名で4名の増。1歳児が183名で18名の減。2歳児は84名で5名の増。3歳児が45名で22名の減。4歳児は20名で昨年と変わりません。5歳児は3名で4名の減。決定者ですが、ゼロ歳が150名で17名の増。1歳児が158名で13名の増。2歳児が64名で7人の増。3歳児が35名で7名の減。4歳児が12名で2名の減。5歳児が1名で2名の減になります。4月の申し込みについては、現在、二次の募集期間になっています。昨日から始まっています。来週の金曜日まで受付します。昨年と比べますと1歳児の申し込みが大分減っている状況です。申し込みが減り、決定される方が増えているので、希望する園に入れている状況、いわゆるミスマッチが解消されつつある状況が今年の傾向であると考えています。

会長

ありがとうございます。

この件について何か質問や意見はありますか。大分1歳が減っています。先ほど委員から他市から当市に転入ということがありますし、出生率も上がっているということで、ニーズはそれなりに増加していると思います。ゼロ歳と1歳の関係でいいますと、先ほどの報告にありましたように希望している入園先とそうではない園とのミスマッチが解消されつつあるのもそうですが、育児休暇が大分定着してきて、きちんととれるようになりましたので、ゼロ歳のニーズよりも1歳児が高かったのですが、今度は実際問題として1歳児がなかなか入りづらいという現状があります。育休を早目に切り上げて、ゼロ歳のうちから申請する方も増えているのが数字の推移にも、その辺りに市民感情や意識が出ている気もします。単純に数字だけではなく、その辺りの裏にある事情も推し量りながらやれたらよいと思います。いずれにしても、市内の各保育園でゼロ歳、1歳について、先ほどの小規模保育も含めまして、その辺りの受け皿そのものを広げる努力は、市に協力する形として各園でできている気がします。

ほかにはよろしいですか。

6. 保育施設及び学童保育所の申し込み状況について

会長

では、もう一方の学童保育所の申し込み状況をお願いします。

事務局

平成29年度学童保育所入所申請状況になりますが、昨年の12月1日から1月13日まで一次申請で受付をした集計ですが市内11カ所に学童保育所があり、その学年ごと、施設ごとの集計になっています。裏面の最後に太枠で囲ってあるところがトータルの数字です。938名の申請受付があり、28年度は901名でしたので、37名の増。学年毎ですと、11カ所の全学童で1年生が332名、2年生が296名、3年生が214名、4年生が75名、5年生が15名、6年生が6名です。なお、現在、二次申請の受付をしています。一次申請の結果は2月中旬ごろに保護者へ通知を差し上げるという事務の流れになっています。

会長

ありがとうございます。

それでは何か皆様から質問、意見等ありますか。

委員

各学童の定員とありましたが、要するに申し込み状況はこうですが、実際のところ枠に対してどうですか。あぶれてしまった人はどういう扱いになりますか。

事務局

現時点で待機のお子さんがありますが、その場合は児童館もしくは教育委員会の協力で、

	<p>学校施設において大人の目で見える形で、時間的には5時までですが、みんなで使っていた形になっています。</p>
委員	<p>ちなみに学童に入るに当たり、学童が必要な理由は要りますか。</p>
事務局	<p>あります。基本的に両親が昼間働いており、放課後に子どもの監護はできない方で、市で点数化をして入所の順番を決めるということがあります。</p>
会長	<p>ほかにいかがですか。</p>
委員	<p>学童の状況で人数や定員の部分を見ていますと、保護者側のニーズで学童に預かっている状況かと思えますがすごく重いです。例えば第八クラブの人数に驚いています。放課後子ども教室と学童保育が一緒になると、何かうまい具合になっていく話があったと思いますが、それをできるだけ早急に話を進めていただきたいと思えます。5、6年生になると運動量も増え、体も大きくなりますので、学童という建物で預かるより、学校の校庭が利用できるのであれば、例えば1～3年生までは今の学童を使い、4年生以降は学校の校舎を使うとか、何かうまい具合に子どもたちが集団の中でストレスがたまらないような預かり方を考えていけたらよいのではないかと思います。</p>
会長	<p>ありがとうございます。</p>
副会長	<p>ほかにいかがですか。就学前だけではなくて、学校に入ってから子育ては連続でつながっているものですから、片方だけ厚くしてもその後の問題もあります。保育をした後は学童に力を入れるというのは、現実のニーズとしてはあるのは間違いないと思えます。</p>
委員	<p>そういうことになりますと金額の見直し等もしないと難しいと思えます。保育所もそうですがお金がない形でやると、働いている人と働いていない人の平等化、そういうことを考えますと、預けるのであればそれ相応の負担を考えていただく必要があります。女性として働きたい人、子育てを優先したい人、両方をかなえるためにパートをする人。自分の働き方、子育ての仕方、その相応の負担をどう考えるかをこの場でも議論をする必要があります。平等な利用や人の確保という点で考えても、市民にどう子育てをしてほしいかというところに話がいけないと、ただ人数合わせ、数合わせになりますと、その充実度や内容には踏み込めなくなってしまう気がします。</p>
委員	<p>そうです。例えばゼロ歳児から保育園に入って、小学校6年生まで学童にずっと預けっぱなしとなりますと語弊はありますが、私も今4歳の子どもがいますが、先のことを考えますと、妻に働いてほしいというのが正直なところですが、非常に難しいところであると思えます。結局、原資は限られているわけですし、個人個人の考え方を強制することはできないにしても、皆さんが幸福になっていくにはどうしたらよいのかを考える機会なのかと思えます。</p>
委員	<p>1市だけで何とかなるものではないとは思えます。</p>
会長	<p>ほかの方はいかがですか。</p>
委員	<p>29年度である程度見直しするための材料としての議論はできるだけ広範囲にわたって、さまざまな視点から反映させられる形になればよいと思えます。先ほどの委員の意見ではないですが、学童に預けっぱなしでよいのかという議論は出ました。</p> <p>これらの意見は、先ほど言った見直しの議論の中でできるだけ、必ずしも全部が全部実現しないとしても、その幾つかの種に、この5年間で全部見直すのではなくて、これから先のことも含めて種をまいていく、その場合も必要になりますから、ぜひそういう貴重な意見をいただければと思います。</p>

<p>会長 事務局</p>	<p>7. その他</p> <p>では、(4)その他、皆様から何か提起がありますか。</p> <p>報告事項ですが、今年の1月から市役所の1階に「赤ちゃん・ふらっと」を整備しました。市役所の食堂の手前に売店が以前ありましたが、その売店は2階に移り、その場所に「赤ちゃん・ふらっと」という授乳やおむつ替えができる空間をつくりましたので、機会がありましたら見ていただけたらと思います。普段は暗いですが、開けると自動で電気がつき、お湯が沸かせるようになっていたり、おむつ替えができるベットがあり、授乳しやすいようにエアコンもつく、そういう感じの空間になっています。この前も赤ちゃんの泣き声が聞こえて、利用されているところであれしく思ったりもしました。待機児対策が一番の目玉になってしまいがちですが、こういった整備も年々少しずつ増やしているところで、小さなことかもしれませんが、子ども・子育て支援施策に力を入れていきたいと思っています。</p>
<p>会長</p>	<p>他になければ会議を終了します。お疲れ様でした。</p>